

第3回吹田市中学校給食在り方検討会議 議事録

令和3年3月11日  
午後3時30分開会  
さんくす3番館4階大会議室

出席委員

北詰 恵一 委員

福井 士郎 委員

尾関 裕美 委員

松永ジュリア・マリナ 委員

巽 美奈子 委員

山崎 さゆり 委員

山本 恵美子 委員

出席説明員

橋本 健一 保健給食室長

伊東 昌宏 保健給食室主幹

杉村 知佐子 保健給食室主査

記録者

伊東 昌宏 保健給食室主幹

### 第3回吹田市中学校給食在り方検討会議 議事録

午後3時30分 開会

伊東保健給食室主幹

皆様こんにちは。本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、第3回吹田市中学校給食在り方検討会議を開催させていただきます。

大阪府下に緊急事態宣言が出たため、中々3回目の開催ができませんでしたが、ようやく開催する運びになりました。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、会議室の換気をしながらの開催となりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

また、本日の資料につきましては、議事次第、資料15、資料16と第1回、第2回の会議録をお手元に置かせていただいております。

不足等ございましたら、お申し出ください。

なお、議事録を作成いたします関係で、会議の内容は、録音させていただきますので、あらかじめ、ご了承くださいようお願いいたします。

それでは会議の進行につきましては、座長が行うことになっておりますので、北詰座長、よろしくお願いいたします。

北 詰 座 長

皆様、こんにちは。よろしくお願いいたします。本日は、3回目ということで、予定では、最後の会議ということになっております。

今までの会議のまとめをしていきたいのですが、また、今日新たなご意見もあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、会議の日程が空きましたので、今までのことを振り返りながら、最終的にまとめていきたいと思っておりますので、委員の皆様、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から本日の委員の出席状況等、ご報告をお願いいたします。

伊東保健給食室主幹

本日の出席状況について、ご報告いたします。

本日、小林委員と須藤委員につきましては、校務の都合上、欠席との報告を受けています。

但し、意見を何点かいただいておりますので、後程、お伝えさせていただければと思います。

なお、本日の傍聴席の設置可能数は、5席で3名の方が傍聴されております。

北 詰 座 長

今日は、次第にありますように、議題が2つございまして、議題1が、「第2回検討会議より全員喫食時における教職員の負担について」、議題2が「今後の中学校給食の在り方について」でございます。

伊東保健給食室主幹

その議題へ入る前にまず、今回の第3回検討会議の進め方について、事務局からご説明をお願いいたします。

本日の第3回の検討会議の進め方について、ご説明させていただきます。まず、第2回目の会議で委員より追加でご指摘のありました「全員喫食にした場合の教職員の負担について」を議題1でご説明した後、質疑応答を受けまして、その後、次の議題2「今後の中学校給食の在り方について」に移っていただきたいと思います。

この議題では、第1回、第2回にて議論いただきました意見について、資料16でまとめておりますので、その内容を中心に委員間で、いろいろ議論をしていただき、本会議の議論のまとめをしていただきたいと考えております。

最終的に、今回の会議でまとまりました議論を事務局で整理し、座長等に確認していただき、この会議のまとめとしていきたいと考えています。

今のご説明でよろしければ、議題1のご説明に入りたいと思います。

北 詰 座 長

皆様、よろしいでしょうか。

何か意見等ございましたら、その都度していただくという形には、していきますが、全体の流れとしては、このような感じでよろしいでしょうか。

では、議題1の説明をお願いします。

杉村保健給食室主査

それでは、私の方から中学校給食を全員喫食にした場合に増加する教職員の負担についてご説明いたします。

お手元の資料15をご覧ください。

想定される教職員の負担として、大きく5つの項目を挙げております。いずれも、本市の小学校給食で行っております業務内容を元に作成したものに なります。

まず、最初に、「食物アレルギーの対応」がございました。

食物アレルギー対応の基本としては、文部科学省の「学校給食における食物アレルギーの対応指針」に示されており、食物アレルギーを有する児童・生徒には安全性を最優先にした上で、給食を提供し、楽しい給食時間となるように努めることを軸としまして、医師からの診断を元にその対応を明確にし、情報共有を行い、シンプルに無理のない対応をすることとされております。

本市においても、資料にお示ししますとおり、学校給食における食物アレルギーに対する対応を学校内や各ご家庭に周知することでその理解を深め、配慮を有する生徒の把握、主治医からの診断、家庭からの聞き取りを行いまして、その診断や聞き取り内容に基づいた取り組み内容を決定し、その内容を校内で情報共有、あるいは、共通理解を行うこととなりま

す。

そうした取組を行った後に、毎月、献立内容の確認を学校とご家庭との間で行います。

資料の右の欄の時期につきましては、現在、小学校給食で実施しているものを参考に、大体の時期をお示ししております。

献立内容の確認は、毎月行いますので通年としておりますが、それ以外の項目については、時期を目安にいただき、毎年度繰り返し行うものとしております。

続きまして、全員喫食となれば、給食の準備や配膳、返却など一連の流れがこれまでにない業務となりまして、これらに対する生徒の指導や、食べ残しやマナーなどの指導、食育の実施が考えられる業務の一つとなります。また、生徒と給食を一緒に食べるなど、給食時間を共有していただくものと考えております。

さらに、事務レベルの負担面では、給食の発注に関わることとして、週一回の給食人員の報告、月一回の行事予定の報告、また、給食人員と納入明細の報告、さらに給食費の徴収を各校で行っていただき、吹田市学校給食会へ納入する学校給食費の徴収、管理業務などが必要となります。

このように、全員喫食の実施に伴いまして、教職員の業務負担が増加することになりますが、教職員の業務負担軽減を図る目的で、給食費の公会計化、学校で行っている業務を市の業務として担う動きもございますので、そのような取組みを推進するとともに、整理できる業務につきましては、できるだけ整理を図りながら、教職員へ十分な説明、周知を行うことが必要であると考えております。

以上でございます。

ありがとうございました。

全員喫食にした場合の教職員の負担についてのご説明でした。

全員喫食が前提になっている訳ではなく、そうなった場合にどうなるかということでした。何を優先して、優先しないかの議論があると思いますが、少なくとも事実関係として、教職員の負担がかなり増えてくると思います。

この件につきまして、皆様のところでもし何かご発言、ご意見、ご質問等ありましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

この資料は、吹田市の中学校関係者に聞いたのではなくて、先程、少しご説明があったように、文部科学省の中に、こういった表が整理されているということですか。

食物アレルギーの対応の表につきましては、基本的に、現在、小学校給

北 詰 座 長

杉村保健給食室主査

食で行っている内容を元に作成したものでございます。

北 詰 座 長 ですから、項目立てとか、時期とかを参考にされたのですか。

杉村保健給食室主査 項目立ては同じになっております。

北 詰 座 長 小学校で行われている負担行為の項目立てがされているということですね。

A 委 員 他、ありませんか。

A 委 員 一つ質問なのですが、全員喫食にした場合、給食の献立は、小学校と中学校で、全く別々に作成された給食管理するのか、それとも同じで統一したもので、運営していくのか、どのような想定をされていますか。

杉村保健給食室主査 まだ、全員喫食になるかどうか未定ですが、その中で、例えば給食の提供方法といたしましては、小学校で行っております食缶方式、それと現在、中学校給食で行っておりますデリバリーによるランチボックス方式がございますので、その方式によって、献立は2種類必要になってくることが考えられます。

その時の給食提供方法、ランチボックス方式なのか、食缶なのかによっても献立が統一化されるかどうかという所が変わってくるかと思っております。

伊東保健給食室主幹 現状は、小学校と中学校で、別々に献立を作成しており、今後、全員喫食に切り替わった場合は、給食提供方法によって、献立を統一化することができるかもしれませんが、現状では、別々に献立を作成することを考えております。

A 委 員 一つ気になったのが、最初に、学校現場の中に、新しいシステムを導入するのは、かなり負担が大きいと考えます。それは、新しいもの、まっさらな所から作り出すのと、既存のあるものをそのままスライドして使われるのでは、全然違ってくると思います。

そのため、運営の仕方で、やっぱり小学校と同じようなシステムをそのまま、中学校にスライドできるのであれば、その方が円滑に物事が進むのではないかと考えたり、学校事務や教職員の方々へ、給食業務に関しても伝達がしやすくなるというのが多少あるのではないかと少し思いましたので、その辺りを質問させていただきました。

北 詰 座 長 もちろん、後の議論の時にも関連しますが、今の段階で、まだお伺いしたいことがあれば、是非お願いします。よろしいでしょうか。

無いようですので、もう一点、私から確認したいことがあります。

これは、多分、吹田市にお伺いすることでないのかもしれませんが、全国的に見ると既に中学校給食を全員喫食で実施している自治体はある訳ですよ。

そこでは、当然、中学校の教職員は、これくらいの負担をされていると思いますけれども、その時に中学校の教職員は、例えば、他の業務が、軽減されているとか、あるいは、少し残業が増えて、そこに残業の支払いをされているとか、吹田市が今やっていない状態とどこか別の自治体で実施しているという時に、単純にその分だけ、中学校給食の負担が増えていると考えていいのか、あるいは、少し軽減できるような仕組みがなされているのか、その辺が少し調べきれないとは思いますが、ご存知の範囲で分かれば、教えていただけないでしょうか。

伊東保健給食室主幹 他市で何時間かかっている、吹田市では、どれ位かかるというデータはでていませんけれども、やはり教職員の負担はある程度、増えると聞いております。

北 詰 座 長 定量では、図れないということですが、何らかの形で純増するということですね。ありがとうございます。他、よろしいでしょうか。

また、関連する議論の中で、このテーマに戻っても良いかと思ったり、教育現場からもご意見あろうかと思ったりするので、その時には、ご指摘いただければと思います。

では、そうした内容も踏まえて、議題2に行きたいと思っております。

議題2では、「今後の中学校給食の在り方について」ということで、これまでの議論を踏まえつつ、本日ある程度の方向性を出したいと思っております。では、事務局からご説明をお願いします。

伊東保健給食室主幹 議題2「今後の中学校給食の在り方について」は、先程、ご説明しましたとおり今までの議論をまとめて頂ければと思います。

今まで議論したことや事務局から説明した資料を元に、現状の選択制給食の課題、食育の進め方、アレルギー対応、教職員の負担などについて、いろいろ意見をいただきました。その中で、本市が目指す給食の在り方として、給食提供方法を含めて何点かこの会議での意見をまとめてもらいたいと思っております。

こちらの資料16で、今までの意見を載せており、事務局でポイントになりそうな箇所を太字で下線を引いております。また、第1回、第2回の議事録も用意しておりますので、それらを参考に、委員間にて、今までの議論のまとめをお願いしたいと思います。

以上でございます。

北 詰 座 長 はい、どうもありがとうございました。ただ、流石に時間が空いているので、資料16で下線を引いている所が何か所かございますよね、その中で取り分け、吹田市としてもここは改めてご説明した方が、議論がスムーズだと思われる点を抜粋するか、読み上げる程度でも良いので、ここで、

確認をしておきたいのですが、1ページ以降、たくさんの黒丸があるのですが、その中で下線を引いたのが、事務局でポイントになりそうな所ですから、その中で注目ポイントがありましたら、少しだけご説明いただけますか。

まず、第1回検討会議で出た意見として、資料16の1ページになりますが、まず、真ん中辺りに、現状の選択制給食には、いろいろ課題があり、中学校に上がる時の説明が不十分に感じる事、小学校から中学校にあがるにつれて、教育上丁寧なやる方が良いのか、悪いのかの議論が必要ではないかとの意見があったと思います。こちらは、真ん中辺りに記載させていただきます。

次に、下から3番目で、アレルギーに関して、対応をきちんと考えていかなければならないことと下から2番目で、教育委員会、市の方で、全員喫食に向かって、理念が明白に打ち出されているのであれば、全員喫食の方向に向けてやるのにはどうしたら良いのかという具体的な話になるとの意見がございました。

続きまして、資料16の2ページの方に移ります。

上から2番目で、お弁当だと量が少ない、本当は、もっと食べないといけないのに好き嫌いなどで栄養が偏ってしまうなどの課題があり、アンケートを踏まえてそのニーズに合うように解決していく方向だけだと、そうした問題を残したまま、中学校給食の話が進んでしまうことになるという議論がありました。

また、下から4番目で、現状の給食については、課題があるので、きちんと改善して、解決方法を出していかなければいけないというのがありました。

その次の所で、給食を進めていくのには、食育というものがキーワードになって、あるべき栄養の姿、あるべき食べ方、こういったものがまず、議論されていくような方向性をここで出していくのが、一つの整理でないかという議論がありました。

次の3ページからが、第2回検討会議で出た意見になります。

まず、2番目、3番目で、子供は、出された物を食べるというのが、主であり、それを選択しているのは、保護者なので、その意見を重要視して考えていかなければいけないということと保護者として、子供達に差が無く、食べられる状況というのは、大事だと思うという意見がございました。

下から3番目で、小学校と中学校で本人の意思の比率というのが、段々と高まっていく過渡期になっており、子供達にどのような判断をさせることが、中学校給食にとって良いのかという議論もありました。

また、その下、食育、要するに教育の一環と保護者のニーズのどちらに合わせて、どこにバランスの焦点を置いて、給食の提供を決めていくのが、落とし所として、大事ではないかという意見がありました。

続いて、最後の4ページになります。

少し大きな議論になりましたが、上から2番目、中学校給食の話をしているけれども、中学生が持っているライフスタイルや、中学生としての思い、気持ちとか、いろいろな所から、本来は議論していく必要があるが、その議論には、時間がかかるのではないかということがありました。

具体的な話になりますと、次の丸印で全員喫食のデリバリー方式では、昼休みに配膳室へ生徒が集中するので、それらの影響を考え、対処する必要があるのではないかということと食育を推進していくためには、栄養教諭はコーディネーターで、教職員の目的意識と全体的なビジョンをしっかりと持って行うことが必要であるとの意見がありました。

そのほか、教職員の負担が増える分をどこまで求めるのか十分考察してから、給食の実施方式と同様に、考えていく必要があること、どの方式であっても汁物があれば、食べやすくなるということ及び実施方式によっては食育の手法が変わるから、そこをきちんと落とし込みが必要であるとの意見がございました。

以上でございます。

北 詰 座 長

ありがとうございます。では、これを踏まえまして、改めて、今後の中学校給食について議論してみたいと思います。

今後の在るべき給食の方針として、どの点が重要か、給食の提供方法としては、どの方法が良いか。また、それに適した方式は、どのようなことが考えられるか、そうした話題をまずは、議論していければと思います。

少し抽象的な議論になりますが、まずは、そこをしていきたいと思っておりますので、どのような形でも結構ですので、ご意見いただければと思います。いかかでしょうか。

B 委 員

吹田市の方では、小中一貫校というのは、何校位ありますか。

伊東保健給食室主幹

本市では、一校だけ施設分離型の小中一貫教育校があります。

B 委 員

そこでは、給食はどのように実施しておりますか。

伊東保健給食室主幹

小学6年生が中学校に年15回、金曜日登校で通っており、給食を希望する児童は、現在の選択制の中学校給食を申込み、給食を食べることになります。

北 詰 座 長

何校あるかというご質問でしょうか。

B 委 員

要するに、私、大阪府下で他の小中一貫校をいろいろ見せて頂いたのですが、給食の在り方で結局、そもそもは食育とはいうものの、何故こう



北 詰 座 長

という問題が起こってきたかということなのですが、小中一貫の公立学校が増えてきている状況です。

そして、大阪府はもっと増やしていくつもりなので、そうなった時に、例えば、小学校6年生までは、普通の給食を出したけれども7年生からは、もう昼食を持ってきなさい、給食ありませんといった格好になるので、どうもいろいろな問題点がでてくるのではないかというので、多分、こういう問題も一緒に同時に出てきたと思います。

今、現在、義務教育校、9か年の義務教育校で実際にどういう給食をしていて、どういう所が問題になっているのか、いろいろ調べた方が、今後、吹田市がやっていく上で、プラスになるのではないかと思います。

私の知っている範囲でも、結構、バラバラです。それぞれの学校で、いろいろ考えてやっているみたいですがね。

分かりました。他に何かございましたらお願いします。

これまで、頂いた意見なども踏まえていただき、食育なるものが、どういったものになるかは、別問題なのですが、そもそも今回の議論の中で、中学校給食でどこまで実現するものなのかというのが一つと、それから、中学生のライフスタイルという言い方をしましたけれども、中学生の何といいましょうか、お昼ご飯に対する思いだとかそういったもの、それから、保護者を含めたニーズの話と、先程、申し上げた食育の話がもし、何かトレードオフの関係があるのなら、どこに落とし所をつけるかというのは、基本的な考え方として、ある程度、ここで、議論しようと思います。

アレルギーについても、全員で揃っていなければ、いけないよというのが、背後に思想としてあるから、全員喫食なら全員喫食という議論があると思いますが、全てのアレルギーに対して、対応できる訳では多分ないので、今まででしたら、個別に各々自分の思い思いのものを持ってきて、あまりクローズアップされなかったけれども、残念ながら、あまり対応できなかったアレルギーの方については、むしろその、特別性がすごく協調されてしまうという意味では、いいのかという議論も一方であろうかと思えます。

出てきたいろいろなキーワードをまとめると、そのような所が議論のポイントになるのかと思っております。

その上で、もし皆様にお考えがありましたら、ご披露いただければと思います。

C 委 員

私は、中学校の方とよく話をする機会があるので、方向性はいろいろな所から見ているとは、思うのですが、今日も少しお話しさせてもらって、中学校が全員喫食になれば、どんな風に思うと普通に問いかけまし

北 詰 座 長  
C 委 員

北 詰 座 長  
D 委 員

た。

すると、やっぱり保護者の負担が大分減るので、働いている保護者も増えている状況からすると嬉しいという所は、あるとのことでした。

子供、うちの子供とか、みんな、給食を食べている子供、クラスに3人位しかいないのですけれども、牛乳があるのは、好き嫌いはありますけれども、子供としては、嬉しいというのがあって、飲めない子供にとっては、苦痛なのでしょうけれども、やはり、中学生は、意外とお茶などを持っていかなくて、意外と自分の考えで全て動いていく所があるので、親がどうのこう言うのでは無くて、小学校もそうなのでしょうが、定期的に牛乳が飲めるのは、良いメリットではないかという意見も聞いております。

また、お弁当の差という所からすると、食育という所に一番繋がると思いますが、やはり給食という、安全で安心なものというのを皆さんに定期的に食べてもらうというのは、身体の成長期にある子供にとっては、とても有効じゃないかと思えます。

お弁当、そのものに差があるのですよね。

あります。やはり、お弁当を持ち忘れた子供も居たりして、少しお金を、数百円持ってきているから、購買で、菓子パンを食べたよと言う子供も居たりして、購買によって違うとは思いますが、菓子パンしかないというところもありました。うちの学校は、結構、種類があって、焼きそばだったり、コロッケだったり、おにぎり、パン、それぞれあります。

しかしながら、大きなドーナツがあって、それを1個しか食べていない、結構、それもボリュームがあるのですが、そういうお弁当を忘れたとか保護者が作ってなかったのかもしれないが、そういうのを聞くと何か親心としては、ちゃんと食べさせてあげると言う環境を作ると言うのは、全体的には必要ではないのかと思ったりもします。

はい。ありがとうございます。他にございますでしょうか。

先程のお弁当の件なのですが、凄く中学生になると特に女子とかですと周囲の目を気にしたりして、急にダイエットに執着して、幼稚園サイズのお弁当しか持ってこない子供が多かったりして、友達が同じような行動をすると安心感を持って、これで良いのだと思ってしまう。

でも、十分食べていないと、午後の授業に集中できる訳がないし、その時期の女の子は、生理も始まるし、一生の身体作りの時期なので、それを含めて、全員が同じ量、同じ物を食べているのを見ると、もう少し食べられる、頑張るといのが出てくるし、どれ位、自分が絶対、食べなければ、身体が作れないよ、どれだけ危険かというのが、あんまり教えられていないというのを凄く感じています。

北 詰 座 長  
A 委 員

そこも必要だと思うし、食事する時だけでなく、例えば、家庭科の中でも栄養の勉強をする時にそういうのもしっかり強調して、男子でも女子でも、これ位、今、食べないと、20代、30代、50代になったあなたが、何になるかどうなるかというのも教えてあげないといけないし、親が言っても、正直言うと、大体、13歳を超えたら、親の言うことは聞きたくない感じで、とにかく親の話は、聞きたくないで、第三者から聞いた方とか、教え方、工夫をして、先生の話も聞きたくないかもしれないが、何かのそういうビデオだったりとかを入れたりとか、自分よりちょっとだけ上の年齢で、私は、こういうことを経験して痛い目にあったとかと言うのを見せるのも大事だと思います。

そのように工夫さえすれば、何とかなるような気もします。

ありがとうございます。

私は、給食を中学校に導入する時に、一番、大変だと思うのが、こちらの資料にあります事務処理のことだけではなくて、給食指導だと思います。給食指導を中学校の担任の教員が、どこまで可能なのか。

保護者の方は、これ位の栄養のバランスを摂れたものを食べて貰えるようになるとか、私が言っても聞かないことを担任の先生から言ってもらえたら、食べて貰えるようになるというのを期待されるのですが、中々、現状、他市で中学校給食をされている所で、そこまで十分な指導、行き届いた時間の確保が、今の給食時間の30分、40分ですか、その程度では、ほぼ不可能に近いと思います。

食育というのも、教員は中学校になると担任制といえども、教科担任になるので、知識をある程度、研修等でもってもらわないと、教室の中で食育をするのが非常に難しい、教員養成の段階の大学組織の中でも中々、栄養教諭は、食育のコーディネーターとして要請はしますけれども、一般の小学校、中学校の教員に、そこまできちんとしたカリキュラム設定ができているのという所は、私も詳しくは知らないですけれども、あまりなされていない感じも受けます。

食缶で提供するかデリバリーかという所で、大きく分かれるということだったのですけれども、どちらの方向に行ったとしても、どちらにせよ、教室に入って担任なり教員が、子供達と一緒に給食を食べながら、そこで食育をするということが、どれ位、負担なのかという所がもう少し、教育委員会の方で、きちんと入念な準備をする必要があると思います。

その見本になるのが、多分、小学校給食だと思うので、そちらの情報をできるだけ、たくさん吸収しつつ、中学校給食で、給食指導がきっちり円滑にできるようにしていかないと、中々、その食育を全面に出して、給食

北 詰 座 長  
C 委 員

を導入するということが、逆に難しくなってくるのではないかと思いますので、私はその辺が凄く心配だと感じます。

ありがとうございます。この点は、どのように感じますか。

今、おっしゃったように、やはり中学校になりますと反抗期を迎えますので、担任の先生自身が、きちんと生徒を指導できないというようなこともまま見受けられます。それから、実際、今の話にありましたように、こういう、例えば、食育を導入するとなったら、教室の中で先生は、食べて貰わないと意味がない、ところが小学校の場合は、教室の中に担任の先生が座る机がありますね。中学校は、別の場所で食事をするのでありません。

教科を教えていく関係で、教科担任制になっていますので、教室の中に担任の先生の机がありません。ですから、教室の中で、担任の先生と一緒に食べるのであれば、別に机はいるのですが、果たして、どこまでできるかということになりますと、今も話があったように、別に食育の専門家ではありませんし、小学生ならしつけという程度で良いことも、中学生でもその程度だとは思いますが、逆に、今、実際に義務教育校を見て感じたことなのですが、先生と生徒が上手く行かず、ぎくしゃくするクラスもあるのですが、そういう食育によって、食育と言うと大層なのですが、一緒に昼ご飯を教室の中で、先生と生徒が食べる、そのことによって、結構、人間関係がうまく進んできたという側面もあるみたいですよ。

何と言いますか、一応、反抗期を迎えている子供ですから、扱いは難しいのですけれども、それでも以前よりは、ましになったとの報告も多数聞いています。

栄養価という面だけで、考えたら、例えば、ご家庭で保護者が栄養を考えて、お弁当を作るのは、大変ですけれども、専門業者に任せると、その点は、きちんと対応してくれるし、アレルギーもきちんと対応してくれるのであれば、それは、栄養価、健康という点では、ややこの制度は良いと思います。

それにプラスして、あまり接触の無い先生と生徒、特に中学生になると本当に、担任の先生とクラスの生徒が接触する機会が本当に減るので、その点でもややプラスになっている点があるのではないかと。だから、協力すると大上段に掲げなくても、一緒にご飯を食べているというだけのレベルですけれども、大分、指導はしやすくなったとそういう報告も聞いています。

北 詰 座 長  
D 委 員

どうもありがとうございます。

今の話に、凄く共感できるのですけれども、明日で卒業する中学3年生の市立の息子と中学1年生で私立に入れた娘が居るのですけれども、それ

で、同時に2つの中学校を見ることができたのですけれども、先生が子供を見ている差が凄くて、市立は、一切、子供を見ていない、子供のことを覚えていない、それが凄く驚いたというか、逆に、そのもう一人、小学生が居るのですが、とにかく公立に入れたくないと思いました。

市立は、コミュニケーションをとっていないことを凄く感じて、もちろん、市立の先生全員がそうと言う訳ではありませんが、先生のすることが多すぎて、コミュニケーションをとっていないことが大半に感じます。

子供だけに集中しようとしたら、そういうことはできないし、午後には、部活も見ないといけないし、あれもこれも多すぎて、子供を見たいという感じを受けません。

例えば、電話で先生に息子からこういう話を聞いたのですけれどもと聞くと、「私は、この教科でないので、ちょっと分かりません。」「また、聞きます。」と言われて、その先生が何日後には、もう覚えていなかったりするの、凄く多かったので、子供は、自分の先生を信頼していないのを凄く感じました。

昨日は、ちょうど明日が卒業式なので、先生に一言、お礼を書くというのがあったのですが、息子は2時間位、ずっと真白な紙に向かっていて、「俺、あいつに書きたくない。」「何故、何か書かなあかんのか。」と言って、逆に、長男が、「ええやん。お世辞や。」と言って長男が書いたりしました。

そういうのを聞くと、本当にそのとおり、ちょっと人間関係も考えなければいけないし、それが給食できっかけになれば、もちろん、各学年1クラス40人として、40人全員がそれでOKになるかというところでもないのでしょうかけれども、何人だけでも先生とその話をできるようにすると大分、違うと思います。

北 詰 座 長

ありがとうございます。ご趣旨は、その市立の中学校の先生がどうのこうのというのではなくて、業務の一環の中で、生徒さんと触れ合う機会があれば、それ程、負荷が増えなくて、密接な関係のきっかけがつけられるのではないかというご提案だと思います。

基本的な考え方について、今、議論していただいているのですが、ご発言の中にもわりと現実的な課題の部分も合わせて、お話をいただいておりますので、ずっとそのまま流れていきたいのですが、そうなりますと、事前にお話しがありました本日欠席の委員からの意見がございまして、それは、大分、両側をまたぐような意見かとも思いますので、ちょっとここで、ご披露いただけますでしょうか。

伊東保健給食室主幹

本日、欠席の委員の意見ですけれども、中学校給食を全員喫食にするこ

北 詰 座 長

とで、そのメリットとしましては、栄養バランスの良い昼食で食育に繋げやすく、お弁当を作る保護者の負担軽減などがあると考えられる。

しかしながら、いくつかの課題があり、これらの課題を克服する手立てや対策を考える必要があるとのことでした。

課題として、教職員の給食準備作業や給食会計の事務負担などが増えてくることで、教職員の休憩時間の確保をどうするか、次にアレルギー対策をどうするか、また、全員喫食のデリバリー方式では、昼休みに配膳室へ生徒が集中するので、混雑が予測されるなどがあるとのことでした。

それらの課題を整理し、対策については、他市の事例や取組み方を参考に取組んでいく必要があるとのことでした。

学校の管理職として、教職員の負担が気になるという所でした。

ありがとうございます。今日、ここで、ご披露いただきました意見と比較的関連する内容もあったかと思しますので、今のタイミングでご説明いただきました。

やはり、全員喫食というのが一つのキーワードになりながら、そのメリットとデメリットについて、今、それぞれご披露いただいているのだらうと思います。

それは、考え方とか構想の部分もありますし、物理的に難しいのではないかという現実的な部分のメリット、デメリット合わせて、考えないと少しうまくいかないということが、今、お話頂いている内容だらうと思しますので、抽象度も具体性もいろいろとごちゃごちゃにしながら、メリット、デメリットを整理していければと思います。

他にもございましたらお願いします。

A 委 員

分かりやすいデメリットとしては、残食の問題になってくると思います。その辺は、提供の仕方が異なることで、また、それとかなり影響を受けるようになるかなと思います。

ランチボックスにすると自分の給食の量は確保できますけれども、2回目の会議の時にも個人の自己決定で食べるか食べないかを決定するとの議論があったと思います。

それが一番、いいことだと私自身は思っているのですが、それが食缶方式にすると量も強弱はある程度つけられるという所で、逆に残量につながる時であれば、残量が凄く減ってしまう、無くなってしまう、だから、たくさん食べる子供が残っている物を食べることになって、これは、永遠のテーマみたいな感じなのですが、給食会計からすると会費は、全員同じように平等に支払っている訳なので、ランチボックス方式のように均等に分け、配膳して食べてもらうことが一番望ましいと思います。

	<p>その問題がどうしても、給食を実施する上では、出てしまうので、特に中学生になると、自分の意思で食べるか食べないかを決めるとなると小学校の時みたいに全員食べるから、食べましょうという雰囲気には、中々、なりにくい、それを指導するという所には、かなりの力量が必要になってくると思います。</p> <p>そのかなりの力量を、当初から、いきなりバツと始めるのには、物凄いいしんどさがあるのでは、ないかと思います。</p> <p>良いように転ぶとコミュニティの場になるけれども、悪いように転んでしまうと、コミュニティの場が凄く、大変な場になってしまうということがあるので、その辺も考えながら、そういう方式にするかというのは、検討した方が良いと思います。</p>
北 詰 座 長	<p>実際にもし、全員喫食なり何なりが導入された時に、吹田市の中学校の教員に対して、どのような教育、訓練、あるいは、指導というのは、どのように考えておられるのですか。</p>
伊東保健給食室主幹	<p>全員喫食を目指すのであれば、そのスケジュールを組んでいかないといけません、どの方式であっても、導入までは時間を要すると思うので、その間に目指すべきもの、食育の内容とか、教職員に研修していく期間は、とりたいと考えております。</p>
北 詰 座 長	<p>新しい中学校給食の方針変更を急いでいる訳ではないのですね。十分に教員へ指導能力をつくことを待ってからでも、構わないよねということが確認できるかどうかなのですが、いかがでしょうか。</p>
伊東保健給食室主幹	<p>全員喫食に切り替わるのであれば、時間を有効に使いたいという思いもありますので、いろいろなことを同時並行で進めていかないといけないとは、考えております。</p>
北 詰 座 長	<p>他市で、実現は曲がりなりにもしているもので、市立の中学校の教育システムの中で、全くできないとは思っていないけれども、拙速にやると、それは、できないよねというのが、あるので、単純に他市でできているからとか少し時間をかけたらというだけでなくて、内容がそれぞれ、ほとんどの中学校教員に、給食指導が、食育指導ができるという所まで、ある程度、例えば、レベルを設定するとか教育方針を決めるとか、あるいは、その中身のカリキュラムのコンテンツを明確にするとか、そういうようなものがきちんとあって、一定の水準が確保されたことが確認された所で導入といったような保証が少し欲しいと思います。</p> <p>ただ、そういうのは決められるのかが気になるところです。</p>
A 委 員	<p>研修、そのものが、忙しい学校の先生にできるかが疑問としてあります。</p> <p>4月が一番、忙しい時期なので、そこに給食指導が入ってくるととんで</p>

もなく忙しい中で、この業務をこなすというのが、とてもしんどいだろうなと感じます。

そして、新学期になるとクラスの子供達とのコミュニケーション、まだ人間関係が十分できていない時期になるので、その時点からしっかり給食指導ができると、そのクラス運営は凄く、スムーズになるというのは、私も教員の友人から聞いたことがあります、その辺が難しく感じます。

とにかく、保護者の方が望まれるような、しっかり食べて貰いたいというところに繋げようと思うと、やはり給食指導を栄養教諭が1クラスずつ回ってやるというのは、ほぼ不可能に近く、毎日のことなので、担任の先生がこういう所を、絶対に、抑えて給食指導をすることが大事で、子供達にしっかり食べさせるという意識というか、認識をしっかり持つことが指導面では重要になってくると思います。

それが分からない内から、給食指導に入っても、実際に、蓋を開けてみたら、あるクラスはすごく残量が一杯で、各先生が給食指導、食べなさいとも一言も言いませんということになってしまうと、学校全体の給食の残量が増えてきて、それはそれで問題になるのではないかと思います。

少し具体的な話をしすぎましたけれども、すみません。

いや、良いと思います。そういうのが絡みながら全体を見て行かないと、現場から切り離れた所で抽象論をしても仕方が無いですから。

どうもありがとうございます。

今、小学校で、よく給食のお便りを貰うと、結構、専門的なことが書いてあったりとか、子供達が提案した給食が実現したりとか、ネット上でも、昔、食べた給食を再現しようみたいなのが、一杯出ています。

なので、そういったのがあるからか作り方も配られたりするのですが、小学校は、担当の先生、すみません、お聞きして良いか分からないのですが、そういったものを発行している先生達がいらっしゃるのですか。

そうですね。全校、全児童に配布しています給食便りは、小学校36校のうち、21校に栄養教諭が配置されておりますので、その栄養教諭の方で作っていただいて、教育委員会から各学校に発信するという形をとっております。

その上で、ただ今、給食の時間、給食の指導といたしましては、その媒体として、毎日、日めくりカレンダーの部分に、給食のお知らせというのを書いています。その中には、献立内容、配食の仕方、その日の食材のトピックスとか、簡単なクイズとかが書いてあり、そういったものを使って、毎日、子供達にその内容を担任の先生、あるいは給食当番の子供が読み上げてから、給食をいただくというようなことを、取り組みとして行ってお

北 詰 座 長

C 委 員

杉村保健給食室主査



- ります。
- 後は、献立表の献立の作り方です。献立表の中にそういったニュアンスを入れたりするのも取り入れたり、各学校の栄養教諭が、試食会などで、保護者の方に献立集などもお配りすることもございます。
- C 委 員      そうしたことが、一緒に入っていけば、先生方の負担とかそういうものが少し、何と言いますか全体的に学校で取り組んでいる意識が小学校の給食にはあって、食事に関して、凄く子供達も理解しています。
- 今日給食がこうだった、ああだった、好き嫌いも言ってくる時期なので、そういう、何と言うか、全体的に皆さんで取り組むみたいな感じで、専門の栄養教諭が居たりして、そうしたことを変えて行けるとか、そういう風にすれば、教員の先生方の負担が減るのではないかと思います。
- 北 詰 座 長      完璧とまでは言わないでも現場の教員の方の負担が少ない中での食育の工夫、余地がありますよねということですよ。
- 小学校で出来ることをそのまま、中学校で出来るか分からない所は、ありますが、知恵の絞り所では、あります。
- D 委 員      例えば、担任とか教師が、どうしても学べない部分、遠い所を補うため、各学校を年何回か回って、そういう専門的な所を見る人とか、専門家を入れるのは、不可能なのでしょうか。
- それとも、例えば、一部の大学では、そうしたことをしている、栄養の勉強とかをしているのですよね。
- そうしたのと生徒達が一緒になって、研修を兼ねての中学校に、エクスペリエンスとして、実際にそれを勉強している若者にチャンスを与えるのもどうなのかと思います。
- 北 詰 座 長      私の大学には、あまりないのですが、いかがでしょうか。
- A 委 員      本学では、来年度から教員養成に力を入れようということで、プロジェクトが立ち上がっている所なので、そういう話は、大学に返して、意見させてもらおうと思っています。
- 北 詰 座 長      テーマは違いますけれども、学校インターシップなる制度が大学にあって、やはり現場の先生には、過大なる負担をお掛けするのだけれども、大学教育の一環ということで、ご協力をお願いして、ある意味では、ウインウインの関係になりつつというのは、あります。
- しかしながら、よく分からない大学生がやってきて何かをやる訳ですから、最初は、大変だと思います。そこは、ある程度、体制が整う必要がありますが、メリットはあると思います。
- A 委 員      中学校教員をやっておられる大学もありますよね。
- B 委 員      あります。それで、恥ずかしい話なのですが、その時に初めて、学生も

食育を学ぶので、小学生や中学生と同じレベルと感じます。

そこに書かれてあることがそうだったのかというのが、大体の意見ですね。だから、学生にしたら非常に新鮮な経験になります。今まで、彼らは、恐らく、そういう教育を受けていなかったのでしょうかね。

始めて経験する学生が非常に、それが新鮮で、こういう栄養素があるのだとか、こういうものに役立つのだというのを給食の時に、いろいろ学ぶ事が多いみたいです。

だから、非常に良い試みだと思います。

北 詰 座 長

良い試みと言うのは、別に大学生が勉強できるかは、今回、このテーマでは、どうでも良いと思うのですが、それが、年齢層の近い、中学生と大学生が、同じような関心事を持って、一緒になって分かるというのは、もちろん中学生にとって、メリットがあるとの話だと思います。

大学生の話は置いときまして、むしろ中学生にとって、中学校の教員とか親が言うよりも比較的、年齢の近い、つい4、5年前まで中学生だった子供が、そういうような関心を持ちながら、同じような思考パターンで、給食について考えるというのが、中学生にとっては、面白かったり、親しみがもてたり、若干、反抗期にある人でも何とか得るものがあったりするものであれば、面白いと思います。

D 委 員

5年後の自分にも当てはまるというのもあり、話しやすいのもありますよね。やっぱり、どうしても教師と生徒と言うのは、年齢差が大きく、年が近くても教師であるから、自分より立場が上という人なので、タメ口は使えないし、壁がどうしてもあると感じます。

でも、今、息子には、大学生を家庭教師として、週1回来てもらっていますが、勉強以上に息子に話をしてもらっています。その方が彼にとってストレス発散になって、兄弟に言えないこと、出来ないこと、親にも話したくないことを話すことが出来るし、相手は、「俺もついこの間、そうやったわ。」とか、こういう風に解決したとかの話にもなるので、大学生は、中学生が心開きやすい年齢になると思います。

北 詰 座 長

今ある普通に保護者が作られた弁当をそれぞれ、もってきている体制で、それはやりにくくて、全員喫食の昼食を制度として実施し、食育というのが表看板として出てくるから、それがやりやすいという位置付けですよ。そういう理解ですよ。

今でも、大学生がやってきて、昼ご飯と一緒に、彼らも弁当を持ってきて、やってもよいのかもしれないと一瞬思ったけれども、そうではないよねということですよ。

A 委 員

そうですね。

分かりました。そういう意味では、今ずっといろいろな議論をしているのだけれども、食育と言う教育の一環として、いろんな課題はあるけれども、全員喫食の制度を持ち込む一つの旗印として、全員喫食と持っていくか、中学生みたいに比較的、段々、それぞれの個性だとか、自分のライフスタイルを確立したくて、人と違うようなことをいろいろやりたいというのも大事にしてあげるのか、そのバランスを今、議論しているつもりなのですが、その中でコミュニケーションとか食育というのが、ある程度、中学生のお昼ご飯の食べ方に対して、教育という観点から割り込んでいって、比較的、統一感のあるようなことがあっても、それは、コミュニケーションであるとか、それから新しいテーマ、食に関する発見であるとか、そういったメリットが大きいので、バランスとしては、そっちの方が大きいのが今の議論の流れになっています。

他、いかがでしょうか。時間としては、まだしばらくございますけれども、一つの方向性として、課題は沢山あるし、全員喫食を導入するには、前提条件として、教員が比較的、そういう趣旨というかノウハウをある程度、持っておかなければいけないと思うけれども、全員喫食の方向で、食育を一つの旗印、メインメッセージとして、導入の方向に進んではどうかと流れになっているというような理解なのですが、よろしいでしょうか。

いやいや、そんな話をした覚えはないという話があれば、ご発言いただければと思います。

それから、より具体的なお話についての議論もあったかと思しますので、そちらの方も少し議論したいと思います。

例えば、実際に導入すると考えた場合、物理的な議論、給食を持っていくまでに時間がかかるとか距離が遠いとか、それから先程来、おっしゃっているように食缶方式にするかランチボックス方式にするかで少し、意味合いも違ってくるといふ議論もあったかと思えます。

その辺について、いくつか方向性がありましたら、お願いします。

具体的には、分からないのですが、給食の実施方式で、自校給食で、配る所が作れるとか、小学校の所をお借りするとかいろいろな方法があると思えますけれども、実際、本当にそれができそうかどうかといった所で、この間、資料をいただきましたが、予算の問題も有ると思うのですが、全員喫食を叶えられる方式というのはありますでしょうか。

いろいろと資料を出していただいております、私達がどうして欲しいと言っても、結局、予算が有って、本当に実現できる現実があるのかが大事なところだと思うのですが、いかがでしょうか。

伊東保健給食室主幹

前回の会議をお休みの委員もおられますが、自校、親子方式では、給食調理場を新設、増設する課題がありますので、その課題を考えていくと時間的には、かなりかかる形になりますので、時間的な面を考えると、それらより給食センター方式、デリバリー方式の2点の方式は、比較的、短い期間で導入できる可能性があります。

C 委 員

また、費用的にも給食センター方式、デリバリー方式は、その他の方式と比べて、費用も抑えられる可能性があるのでは、ないかと考えております。

無理なことをやろうとしたら、時間もかかって、結局、何も変わらなかったとなってしまうたら、折角のこの会議も無駄になってしまうのは、もたいたなく感じます。

北 詰 座 長

現実に見た時にどうなのかを知りたかったものです。

私が他の自治体で、中学校給食の全員喫食の給食センター方式を実施した際に、予算立てとして、中学校の給食を導入するために必要になった建築、改築工事分、この費用も合わせて、予算組みをして、導入していました。だから、遠いとか混雑するとかあれば、ゲートを1個増やすとか、あるいは、建て増しをすとか、廊下を広げるとか、何かあるのだと思いますけれども、そういうようなことも併せて、予算組みをするというやり方があります。

そうすると、また予算がとおりにくくて、実施が1年、2年遅れそうだけれども、今、お話しされたように、準備が不十分で、無理やり始めてしまうと、最初が大事なので、そこで、うまく行かなかったら、本来、今回狙いとしていた教員と中学生の間のコミュニケーションとか食育まで悪い方に流れてしまうと先程、ある委員がお話されていたと思います。

なので、そうしたところも含めて、やればと言うのが私の思いです。

かかる金額が何千万円、1億円、2億円となるので、大変なのですけれども。リフォームイノベーションも少し入れ込んで貰えないかとも思います。

A 委 員

食事を提供するというところだけを考えると味とか子供のニーズに合う、何と言うのですか、栄養のバランスが摂れているからこれでという食事の提供の仕方ではなくて、やはり子供達がおいしく食べられる所が大前提だと考えるので、それをおいしく提供するためには、どういう方式が良いのかということも視野に入れて欲しいと思います。

これまで、中学校給食で全員喫食を実施せず、選択制をとってきたことは、その問題点が多少あって、家庭でお弁当を用意するようになったのではないかと何となく考えるのですが、そういうことはありませんでしょうか。

伊東保健給食室主幹

最初に選択制を導入した時に、大阪府下では給食を実施している自治体が少ない中、それでも給食へのニーズがあり、それに応えようとして、小学校のような給食を提供しようとするすると費用もかかること、生徒自らが給食や弁当を選ぶことにより、食について考え、より望ましい食生活を身につけさせることができること、また、弁当には、愛情面や家庭でのコミュニケーションという効果もあったことなどを踏まえて、選択制を採用した経過があります。

その後、共働き世帯の増加や全員喫食を求める保護者の声、大阪府下でも全員喫食をする自治体が約75%と増加するなどの時代の変化に合わせて、今回、今後の中学校給食の在り方についての会議をもっているところです。

A 委 員

そうですね。私も中学校給食を経験したことがあるので、食べるのは、子供達なので、その子供達が喜んで食べてくれることを抜いてしまって検討する、食育だけ重要視して、栄養のバランスだけを考えて実施の方向で考えていくのは、あまりにも勿体ない話と思いました。

前回の会議で、汁物の話があったと思うのですが、そういった生の声、汁物が付いていることで、美味しく食べられるのではないかという意見、こういったことも導入しながら、もう少し詰めていかれた方がよいのかなあと考えます。

北 詰 座 長

とても重要だと思います。バランスの問題ですから、先鋭的にメリハリをつけてこっちに行き過ぎるのはどうかと思うので、今みたいな修正意見が是非、欲しく良い意見と思い、聞いていました。

もし合わせて、こうした関連のテーマがございましたらお願いします。

保護者が作られたお弁当は、子供の好き嫌いを、よく分かっている人が作られるので、基本的には美味しいお弁当であるという理解なのですが、二つポイントがあって、一つは、保護者なりが忙しくて、十分には、お弁当を作れず、結局、コンビニのパンを買って、食べたりとか出来合いのお弁当で済ましてしまうケースは、必ずしも美味しいかどうかで言うと、決して美味しい訳でないと、私は理解しています。

A 委 員

そうなのですか。それも、私は個人の意思だと思っています。

北 詰 座 長

分かりました。その点は、了解しました。

それと、ポイントのもう一点は、先程汁物のお話があったのですが、汁物であるとか、それから温かいか温かくないかという温かい方が同じ水準の昼食であれば、多分、おいしいのだろうと思いますので、温かさを維持したまま提供できるかどうかというようなことが、どの方式を導入するか考えた時に重要な要素になるのかなあとと思います。

その子供がおいしく食べられることが大前提であるということについて、メッセージは、一つ一つの作業というか、方式に落としこんでいく時の一番基本的な大前提として、ここでは、この会議の一つの大きなメッセージにしていければと思います。

それが一つ一つの先程の汁物の話とか温かいものが良いとかに繋がっていくのかなあと思いました。

後、冒頭に議論がありながら、まだ十分協議していないことにアレルギー対応がありますが、アレルギーはどのようなテーマというか課題というか、この会議のまとめとして、市の教育委員会へのメッセージを必要とするか、これについて、もしご示唆がありましたら、お願いします。

それは、出来るだけ沢山、丁寧に対応してくださいとしか言いようが無いのかもしれませんが、予算の関係もあるし、物理的な制約もあると思いますが、いかがでしょうか。

小学校の事例となりますが、小学校は、全36校で、21名の栄養教諭の配置があり、栄養教諭の未配置校でも同じ対応ができるようになっております。

献立に関しましては、乳と卵の除去食、これを統一的に行っており、以前は、学校独自で、それ以外の対応をしている所もありましたが、事故につながりかねない部分もございましたので、全校統一で行っております。

ただ、その際には、保護者の方から診断書等の提出を求めることになりますので、やはり、そのご負担のことを考えますと、今、現在、特定原材料等のアレルギーとして、28品目ございますけれども、その中のそば、ピーナッツ、くるみなど10品目では、一切、給食では出さないということを決めております。

また、学校給食の特性上、生で提供するという事は、ありません。

やはり、アレルギーの項目の中で生の果物、あるいは、生の刺身、生卵といったものは、一切、給食の方で提供しておりませんので、そうしたものは、明確にして、提供しないものについては、保護者の負担軽減を図るため、診断書等の提出の必要はありませんということで対応させていただいている現状です。

ただ、やはり加工食品等の食材も多くございますので、そうした時には、吹田市独自の規格としまして、乳と卵を使っていないもの、そういったものを規格の方に盛り込みまして、そうしたものを使用しています。

そして、昨今は、小麦ですとか大豆ですとか、そういったものの対応も求められていますけれども、出来るだけ、選択肢の幅があるのであれば、加工品などは、そういったものを使っていき、配慮した献立の提供も進め

B 委 員

ている所でございます。

アレルギーの児童は、診断書を出すということですが、それは、どういう理由で求めているのですか。

杉村保健給食室主査

先程、アレルギーの所で、ご説明しましたとおり文部科学省から、示されております対応指針の中に、保護者の方のお申し出のみで、アレルギーの対応をすることで、一つは、食べてはならないものを集団給食だから食べさせてあげたいから食べさすことで、事故につながる。あるいは、給食というのは、一応、全員食べることが必須になっておりますので、個人の好き嫌いを理由で、食べる事の有無を無くすために、医師の診断書を求めています。

診断書の形式も学校給食指導管理表というのがございまして、それが、アレルギーの項目、いくつかに特化したものですが、その様式を提出するものによって成立しているものとしております。

B 委 員

以前、私が居ました中高一貫校でも、アレルギーの子供がいて、これは、旅行の時ですが、以前は、診断書を提出させていたのですが、ところが途中から、診断書の提出を止めたことがあります。

その理由は、本人の今、お話されたように好き嫌いで、アレルギーでも何でもないのにチェックする子供がおり、診断書を出させていた時には、その子供は、全部、残していました。嫌いなものだから、食べなかったためです。ところが、自己申告制にした時は、嫌いなものは、元々入っていませんから全部、食べるようになりました。

だから、確かに食育という観点で言えば、それは、「アレルギーでもないのだから食べなさい。」と言うのは、分かるのですけれども、「本人にとっては、苦痛になるのではないか。」という意見が出てきましたので、その診断書の提出を止めたのですけれども、その辺の所はどうなのでしょう。

そちらでも、いろいろと検討はされたと思いますが、いかがでしょうか。

杉村保健給食室主査

まず、この対応指針が文部科学省から出ましたのが、平成24年に調布市でチーズ入りのチヂミを食べた子供が亡くなるといった大きな事故があり、その後、示された対応指針になるのですけれども、子供の安全を最優先にしなければいけないということになりまして、その間にも、私共も、本市の医師会とアレルギーの対応、あるいは、書類の有無につきまして、ご相談させていただきました。

その時に、医師会より言われたのは、医師の診断に基づいて、やっているということは、やはり大前提になるということと、アレルギーというのは、えびやかになどの甲殻類につきましては、中々、改善していくのが難

北 詰 座 長

しい種類になるのですけれども、年々、改善していくものもあるので、毎年、定期的に受診し、医師からの診断を受けるのが必要で、そうした所も保護者と学校と一緒に取組んでくださいということを言われましたので、主治医から診断書をいただくということにしております。

方針ということで、どういうメッセージを出すかということなので、今、文部科学省であるとか決まりとして、こういう風に決まっているから今こうしていますというのは、よく分かるのだけれども、その中にもいろいろと裁量の幅があるだろうと思います。

その中で、より多少、コストがかかっても、多品目について、対応すべきだという見方もあるだろうし、最低限の対応だけして、どうしても対応ができない人は、ご家庭から持参されるお弁当で対応してくださいというものもあるだろうし、その辺の何かルール立てみたいなのが、もしあれば、ご発言頂き、一つのメッセージにしていきたいと思います。

また、もし無ければ、決まったルールに基づいて、中学生のアレルギーを持つ生徒の現状に踏まえて、十分な対応をすべきというメッセージにしたいと思います。

B 委 員

私の所で診断書の提出を止めたのは、いろいろな先生方の意見、あるいは、保護者、生徒の意見があったのですけれども、一番、決定的なものが、食育という大上段に構えて、食事の場も教育の一環であるというのも、もちろん分かるのですけれども、やはり、食事の場は、息抜きの場でもあっても良いのではないかということが大きいです。

「食べる時ぐらい、教育という概念から離れても良いのではないか」、もちろん、その偏食は良くありませんけれども、「これは、こういう栄養があるから食べなさいということを食べの場では、言うべきでないのではないか、言わない方がむしろ良いのではないか」、「目の前で、美味しそうに食べていく方が、その子供にとっては、これを食べなさいというよりは、効果的ではないのか」、「自分がそれを食べて、美味しそうにする方が、むしろ良いのではないか」という意見が沢山、出てきました。

それで、偏食になる恐れは、非常にありますけれども、食事の場であまり、「こういう指針で、こういう目的でやっているから、あなたは食べないと駄目ですよ」、「残したら駄目ですよ」とか言うのは、食事の場では、出来るだけ、止めて、先生、生徒という垣根を少しでもとって楽しく食べてもらおうという趣旨で、実は、診断書の提出を、止めるようになったのです。

でも、今、議論している趣旨からしたら、合っているかどうかは、分かりません。この趣旨からしたら、それでは、筋が通らないという話になる



北 詰 座 長

かも分かりませんが、実際行ったのは、そういうことでやりました。

他の委員が言っていたことと整合性はとれる所はあると思いますが、アレルギーの問題と切り離れた方が良いと思います。

アレルギーというのは、本人の健康状態とか生命を守るための問題なので、やはり医療的な根拠があったものを持って進めるのが、本人のためにもなるし、担当している中学校の先生の責任問題何かも含めて、必要だと思います。

一方、今、ご指摘いただいたのは、この今日の議論は、割と前半戦、食育を旗印にして、全員喫食としていまいしょうと申し上げていて、委員から子供がおいしく楽しく食べられることが大前提だという話があった時に少し、方向性が変わり、今、お話されていることは、多分そちらに近いと思います。

お昼ご飯くらいは、自由に食べさせてよと言うのは、逆に言えば、子供がおいしく楽しく食べられる大前提が守られれば、ご指摘のことは達成されると思います。

なので、この会議のまとめを教育委員会に申し上げる時に、子供がおいしく楽しく食べられるのが大前提であるというのが一番になって、その範囲で食育をしてくださいというか、食育が、一番とっても大事です。その中で、子供がおいしく楽しく食べられるのを考えてくださいという2つの問題を実は議論しているのです。

ただ、単に言葉の順番のように見えるけれども、これを具体的なプロジェクトの中身に落とし込んでいくと、優先順位が絶対、変わってくる筈です。

その上で、どちらにしますかという話になるのですが、いかがでしょうか。

C 委 員

私は、今、保育園で看護師をしており、アレルギー対応から全てを保育士に教えています。

乳幼児というのは、特にアレルギーが強くて、本当に一瞬で、ガッと出た時に、表面で出れば、まだ良くて、アレルギーとしては、対応しません。

しかしながら、一回食べて出てしまったのが、担担麺の練りゴマで、アレルギー体質の子供ですけれども、「食べていたら、どんどん赤くなってきました。」と言われて、アレルギー気質の子供だから、栄養士とも一緒になり、慌てて、何かアレルゲンになるものが無かったか、全部見直しました。

私達が一番、守っている所は、子供の命という所を大前提に、自分の所、それこそ小さい保育園なので、自己給食で、やっているのですけれども、

美味しく食べてもらう、でも危険はさせないという所でいうと、かなり、アレルギーの研修は受けており、それこそ厚生労働省の研修を受けたりするのですけれども、基本的には、やっぱり事故が起こってはいけない、これ本当に大事な所です。

なので、診断書という所は、形式になるのですけれども、私達もどこまで食べられるのかを知ってあげることは、重要なことです。

そして、中学校給食の試食をした時に、きびなごのような、小さな魚を揚げている時に米粉の粉を使ってくださっていて、結構、工夫をされていることを思いました。

だから、そういった形で活かすことと安全に食べられる給食で、美味しくという所であれば、アレルギーはきちんと、大前提に置いていただくのは、確かだし、好き嫌いは、別として、本当にアレルギーの子供は、必ず、生活管理表など絶対に提出していただかなければいけない医師の診断書に基づいています。

血液検査はあてにならないので、そこら辺、食べてみて、どの程度なのかという所を、細かく半年ごとに見て、本当に食べられないものは、駄目ですけれども食べられるようにしていく。また、本当に食べられないものを誤食しない、命を守るという所も絶対的に大前提になってくるので、代替食、そういうものをもう少し活かしていただくような、最終的に、本当は食べられない品目だけれども、違うものを代用して、「こうしたら食べられるよ。」、「このような物が食べられますよ。」、というのが、大前提だけれども、食育にもなるし、その子供が、食べるのが楽しいということにも繋がるのでは、ないのかと思います。

北 詰 座 長

ありがとうございます。他にもし、ありましたらお願いします。

実は、この会議の終了の目途を17時にしており、一通り議論いただき、短時間でうまくまとめきれないのですけれども、後半、各委員からお話をいただきましたので、中学生の子供達が、おいしく楽しく食べられることを一つの前提に置きましょう、というのを一番、最初のメッセージにさせてください。

それは、すなわち、中学生のライフスタイルであるとか、この時期、特有の思いとか、そういったことに寄り添うような給食システムである必要があります。

一番、最初からずっと皆様が言っていた意見をざくりとまとめるとそういうことになるかと思っています。

その上で、全体で対応するという言い方もされていましたが、中学生の皆さんが、同じメニューを食べ、そこにいくつか課題はあるけれども、食

育という要素を盛り込むことで、新しい給食のスタイルを提案できるというのが必要になります。

ただし、それを導入するにあたっては、教職員の負担であるとか、給食指導を十分に、体制を整えた上で、実施する必要があります。

また、アレルギーについては、命及び健康を守ることを基本方針とした仕組みを構築してください。そして、それが実現できるような方式を導入してください。

大体、このような感じでまとめさせていただこうと思うのですが、いかがでしょうか。

A 委 員

すみません。おいしく楽しく食べられる環境とか場の構築、それそのものが食育だと思うので、そのように書いてもらった方が良いと感じます。

それに付随したのが、食育ではなくて、それ、そのものが、食育になります。

北 詰 座 長

なるほど、どうまとめましょうか。

だから、おいしく楽しく食べられることを大前提として、それを食育の中心に置いた食育システムを作ってくださいということによろしいでしょうか。

A 委 員

そうですね。

伊東保健給食室主幹

すみません。今の話を事務局でまとめますが、おいしく楽しく食べられることと食育の順番も意識した方がよろしいのでしょうか。

北 詰 座 長

並列で並べていただいて、結構ですけれども、大体、3つ位、箇条書きに並べると、一番、最初に書いてあるのが、一番メッセージらしく見えます。

先程も申し上げましたが、これは、言葉遊びをしているのではなくて、具体的な1個1個のプロジェクトというか、工事とか対応策が出る時に、それだけで絶対が変わってきます。

では、そのような方向で行かせていただいて、自分の、ご自身のご意見や気持ちがあまり反映されていない所がありましたら、少し修文いただいて、最終的にまとめが出来ればと思っております。

一つ最後、お聞きしておきたいのですが、物理的な制約の問題なのですが、例えば、今、おいしく楽しく食べられ、食育が可能、全員喫食だという言い方をしている訳ですが、全員喫食にするための、しかもおいしく楽しく食べられというと、あまりランチボックス方式というより食缶方式になっていきそうですけれども、大丈夫なのかということですね。

伊東保健給食室主幹

こちらとしても、提供は、温かくておいしい給食を目指していきたいの

北 詰 座 長

で、それを実現しようと思えますと、食缶方式が可能性としてはありますので、こちらの会議で、そういう結論が出れば、それを踏まえて検討をすすめていくことになるかと思えます。

まず、目指す方式は、今、最後にまとめられた点を踏まえたものになると考えております。

伊東保健給食室主幹

それは、給食センターみたいなのを作ろうということになるのでしょうか。実際、吹田市にそのような土地があるのかが気になります。

北 詰 座 長

給食センターの場所については、いろいろと検討している所です。

分かりました。そこまで、この会議で立ち入ることは、ないのかもしれませんが、実は、制約条件というのは、物理的条件と政治的条件と経済的条件があるのですが、物理的条件が一番、達成しにくいです。

センター方式にしますと言って、実は、土地がありませんとあって、今まで検討したことが全て、ご破算になるというのは、何となくやりたくないもので、あるのかというのを聞いたかったものです。

吹田市は、全部、都市地域ですので、大体、私が関わった自治体のセンターは山間部や廃校となった小学校跡地とか、立ち退いてくださった工場跡地とか、そんなのが吹田市にあるのかが気になったもので。これは、余談です。ありがとうございます。

では、先程、ざっくりとまとめさせていただいた方向で、細かい所は、修正していただくところがあるかと思いますが、その方式でまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

そしたら、一旦、議題2を終わらせていただきまして、議題3「連絡事項について」、よろしくお願いします。

伊東保健給食室主幹

先程、会議の議論を座長にまとめていただきましたので、その内容をまとめ、事務局で整理し、本会議のまとめとさせていただきます。

その内容については、座長、副座長、各委員に確認していただき、それで問題がなければ、それが検討会議のまとめになりますので、よろしくお願いします。

北 詰 座 長

はい。ありがとうございます。もう一度、皆さんに細かい所をチェックしていただくタイミングがございますので、是非、その時にこんな話をしとらんということは、是非入れていただいて、全体のバランスは、すみませんが私に、ご一任いただければと思っております。

それでは、よろしくお願いします。

では、本日の会議全体を通して、その他に何か意見等ございますでしょうか。もし無ければ、これで、最後にしたいと思います。

D 委 員

質問ですけれども、今後の給食を検討する期間、時間が気になります。

伊東保健給食室主幹 どういう想定で、今出した話を、では、いつまでに何かを決めるというの  
はありますでしょうか。

伊東保健給食室主幹 今までいただきました意見を元に、教育委員会で、できるだけ早急に今  
後の給食の実施方針を決定したいと思います。

伊東保健給食室主幹 決定すれば、それに基づき、実現していくようにしていきたいと思いま  
す。現段階では、5年や6年というような具体的なスケジュールは示せませんが、  
全員喫食という方向性はあったかと思しますので、その実現に向けて  
動いていきたいと考えております。

D 委 員 ある程度、スケジュールがあった方が、事が進むのではないかと思うの  
ですけれども、ゴールがないとか、締切りがないと考える時間が大分、長  
くなりそうな感じを受けます。

伊東保健給食室主幹 実際、全員喫食の実現に向けて、動いていけば、今から10年、20年  
先の話には、ならず、実現を目指せるのではないかと考えております。

D 委 員 分かりました。

北 詰 座 長 誤解なきように言いますと、「食育指導の体制が、とれてから導入して  
くださいね。」と言うのは、やみくもに時間を延ばして良いという意味で  
は、ないので、そこは、誤解のないようにお願いします。

北 詰 座 長 他にないようですので、私の役目としては、これで終了という形にさせ  
ていただき、事務局にお返しいたします。

橋本保健給食室長 委員の皆様、この度は、貴重な意見、ご議論をいただきありがとうご  
ざいました。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、スケジュー  
ルが確定しない中、皆様のご協力を得まして、何とか無事に3回目も終え  
ることができました。

橋本保健給食室長 会議においては、中学校給食の内容にとどまらず、中学生への教育の在  
り方、多感な中学生の状況など、幅広く議論や意見をいただき、有意義な  
会議であったと感じます。

橋本保健給食室長 今後、頂きました意見や議論の内容を踏まえまして、本会議のまとめを  
行うとともに今後の中学校給食の在り方について教育委員会として、早急  
に方針を決めていき、それを実現できるように取組みを進めていきたいと  
思います。

橋本保健給食室長 また、その内容につきましては、広く周知していきたいと思いま  
すので、よろしくお申しあげします。

橋本保健給食室長 なお、傍聴人の方は、資料を置いて退出をお願いします。

橋本保健給食室長 本日は、どうもありがとうございました。

閉 会 午後5時